

児童向けに医学教室

内科医ママが指導

武蔵野、三鷹 実験、クイズ好評

「体の不思議や医学の面白さを子供たちにも知ってもらいたい」。そんな思いを込めて、武蔵野市吉祥寺南町の内科医沢田めぐみさん(47)が、「とうきょうキッズメディアカールスクール」を始めた。授業では実験やクイズを交えてわかりやすく解説。子供たちは白衣に身を包み、熱心に学んでいる。

(河村武志)



血圧の仕組みを沢田さん(右)が解説すると、子供たちは真剣な表情で聞き入っていた(5月15日、武蔵野商工会議所で)

「血圧って何?」「血液は心臓の中でどんなふうに動きますか?」

武蔵野商工会議所(吉祥寺本町1)の会議室で先月開かれたスクールで、沢田さんは8人の小学生に語りかけた。

この日の主な学習テーマは、心臓や血液の流れ。心臓の部位をクイズ形式で答えさせたり、血圧計を腕に巻いて実際に計測しあったり。参加した成蹊小3年の辻なつみさん(8)は、「静脈や動脈の働きなどを知ることができて面白かった」と笑顔で話していた。

沢田さんは呼吸器内科が専門で、都内の大学病院な

どに13年間勤務したが、出産を機に2000年、臨床の現場を離れた。その後は非常勤の内科医として都内の検診センターで働くが、長男(11)と長女(7)の子育てを通じて、

てを通じて、「子供の頃から医療に親しめる環境があれば、医療への理解が深まるのでは」と考える機会が増えたという。

歯科医の夫(49)に相談し、知人から顕微鏡を借りて09年秋、自宅で教室を開講。長男の友達を集めて教えると、受講希望者が増えていった。

手応えを感じた沢田さんは、子供向けの医学教室の事業計画を、三鷹市の「みたか社会的企業人財創出コンソーシアム」に提案。その選定会で第1位を獲得し、国から最大300万円の起業支援金が受けられることになった。

顕微鏡や超音波検査装置などを購入して4月からスクールを開講し、同会議所と「三鷹ネットワーク大学」(三鷹市下連雀3)の2か所を教室にしてそれぞれ毎月1回、90分の授業を行っている。講師は沢田さんと知人の外科医、産婦人科医、薬剤師ら計6人が交代で務める。沢田さんは「将来の医学部生を育成するためにはなく、子供たちの『生きる力』を育むことを目的に続けたい」と話している。対象は小学3〜6年生。授業料は月額5000円(別に機材費1000円)。問い合わせは、沢田さんのメール(info@kidsmed.jp)。